

自分さがし

平和講演会を聴いて

～パート2～

●3組 ●

私は今日の伊原先生の「戦争体験」を聴いて1番印象に残ったのは学生まで、しかも自ら「戦争に行きたい」と願いでることがあったというお話です。

今だったら「戦争に行く」という事だけでも日本ではあり得ない事なのにさらに学生が自ら願いでるとするのはものすごく残酷なことだと思いました。

また、女性までが竹やりなどで訓練しなければいけないということも大変な話だと思いました。女性たちも戦争に参加しなければならなかったという事もひどい話だけど爆弾は空から降ってくるのに竹やりなんかで戦えないのにそれでも訓練しないといけなかったというのもおかしい話だと思います。さらに沖縄戦では死者20万人、そのうちの約9万人が一般人というのにも戦争の残酷さを伝えていると思いました。しかもそれは1945年、終戦の年の話でもう勝ち目は無いのに戦い続けて挙げ句の果てに原子爆弾まで落とされてしまいました。結果的に一般人や兵隊の死者が約300万人も出すことになってしまった戦争をもっと早くやめることはできなかったのか、という疑問もあります。戦争は戦っている相手国の人までも傷付けたり殺したりしてしまう全く利益がない戦いです。あ今日の伊原先生のように戦争の体験者の話を聴くことで「戦争はいけない」という意識ができればいいと思います。



●1組 ●

ぼくは、今の世界は変化し一歩前へと進んでいるんだと思いました。

戦争というおそろしいものと同時に中学生も戦場へと送りこまれて、中学生という若く夢にむかってがんばっていた人もいたのに、人びとの人生を大きく覆してきました。それに、最悪の事態に入びとがまきこまれ苦しみ、そして家族とも別れておそろしいところへと足をふみいれないといけないうことという恐怖を感じて考えただけでぞっとします。この事態にぼくは国々のおたがいのことを尊重しあう国民の心、そして命という大切なものを戦争などで人生を大きく覆すことをするのはやめて欲しいと感じました。やはり大切なのは、国民の命だと思うので、1つでも2つでも命を守って平和の輪を広げて未来に向かって、もっと交流が広まってほしいと思ったし、世界は広いし国の数も多いけど仲のいい笑顔を乱さない世の中になってほしいです。



●4組 ●

私が、一番怖いと思ったことがあります。それは、「国のために死ぬことを教えていた」ことです。私にとって今では考えられぬことでした。自分と同年代の若者が戦場に行かなければならない当時の状況を怖いと改めて感じました。伊原さんは憲法9条に触れてくださり「戦争は断じてすべきではない」と訴えてたおられた気持ちがわかります。私も「もう二度と戦争はしてはいけない」と実感しました。

そして、伊原さんが乗っていた特攻機は、相手においかけられたときはすごく不安だったと思います。伊原さんはすごく勇気がある人だと思いました。普通の人ならば自分からいくなんて言わないと思うからです。今までつらい思いをしてきたと思います。戦争に行くと生きて帰ってこれないくらい激しいといっていたのはよくわかります。伊原さんの話で私が知らないことをいっぱい話してくれたのでうれしかったです。

●1組 ●

今、伊原さんの戦争体験談を聴いて、とても悲しくなりました。1時間という長くもあり短くもある時間を必死にただひたすらに苦しかったこと、上下関係の厳しさ、戦争の怖さ、生きることに必死で本当に苦しくて、つらい日々を送っていたらしゃったと思うとなんだか胸がきゅっとなりました。昔のように戦争がある国が減ったといえ、今、ここで私が、友だちが、家族がいっしょに何不自由なく生きていられるのがとても幸せに感じました。

また、直接戦争に関わることではないのですが、戦争や紛争で苦しんでいる人びとのためにほんの少しだけでも「力」になりたいので、おつりなどでも募金活動を心がけたい、そう思いました。こんなことを思わせてくださった井原さんと、この機会に感謝しています。

●4組 ●

伊原さんの体験談を聴いて今、私達がこのように過ごせているのは戦時中の人びとのおかげだと改めて思いました。私達が今、ふつうに食べたり買ったり、学校に行ったり遊んだりなどあたりまえにしていることでも昔は困難だった。今まで戦争について学んで子どもでも働いたり大人の男性はみんな戦争に行つて妻と子を残して命を落とした人もたくさんいるし、広島や長崎、沖縄など、原爆などが起きて亡くなる人は絶えなかった。このようなことが昔もそして、今も行われているのは悲しい。そして、いまだに戦争しようという気持ちの意味がわからない。戦争で亡くなった人、戦争を体験した人の悲しみ、苦しみを忘れず来世へ伝えることが大切だと改めておもいました。